

第55期 定時株主総会

2019年6月20日
JBCCホールディングス株式会社

事業報告

1. 2019年3月期 決算概要
2. Transform 2020 進捗状況
3. 2020年3月期 取り組みと業績予想



今年で創業55年。2万社以上のIT活用を支援

- 社名 : JBCCホールディングス株式会社 [東証1部9889]
- 設立 : 1964年4月1日
- 資本金 : 47億13百万円
- 社員数 : 2,113名 (2019年4月1日現在)
[有期社員を含む連結ベース]
- 事業会社 : 11社



国内52拠点、海外4拠点

1. 2019年3月期 決算概要

- **売上高、利益ともに業績予想値を大幅達成**
- **ROE 11.6% (過去最高)**
- **1株当たり純利益106.4円 (過去最高)**

	2018年3月期	2019年3月期	対前年	業績予想	進捗率
売上高	63,107	58,899	-6.7%	57,300	102.8%
営業利益	2,060	2,631	+27.7%	2,455	107.2%
	3.3%	4.5%		4.3%	
経常利益	2,034	2,738	+34.6%	2,530	108.2%
	3.2%	4.7%		4.4%	
当期純利益	1,186	1,782	+50.2%	1,570	113.5%
(親会社株主に帰属する当期純利益)	1.9%	3.0%		2.7%	

	2018年3月期 (イグアスを除く)※	2019年3月期	対前年	業績予想	進捗率
売上高	56,349	58,899	+4.5%	57,300	102.8%
営業利益	2,036	2,631	+29.2%	2,455	107.2%
	3.6%	4.5%		4.3%	
経常利益	2,010	2,738	+36.2%	2,530	108.2%
	3.6%	4.7%		4.4%	
当期純利益	1,126	1,782	+58.2%	1,570	113.5%
(親会社株主に帰属する当期純利益)	2.0%	3.0%		2.7%	

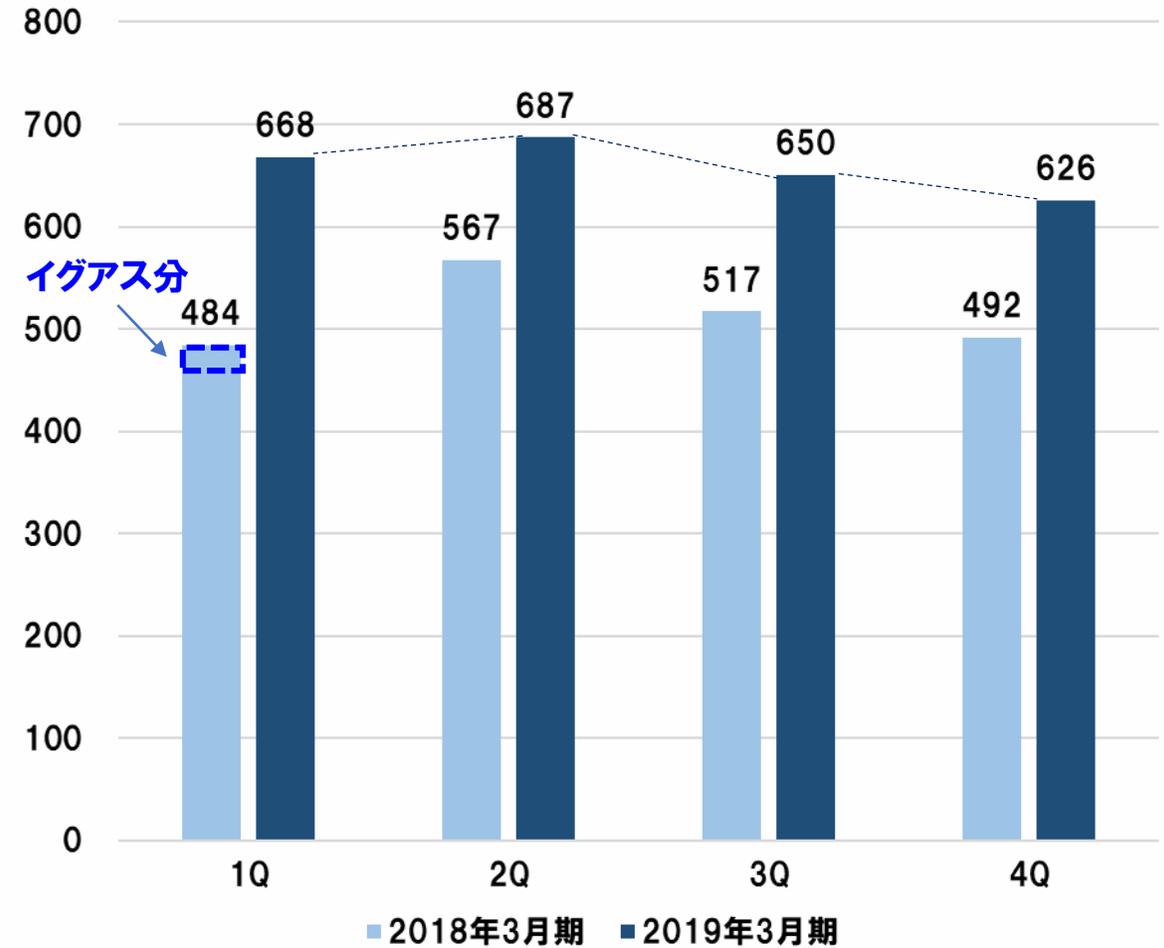
※ ディストリビューション事業を行っていた株式会社イグアスの株式を2017年6月末に譲渡した結果、連結対象外となった。

こちらの頁は投影のみとなります。

売上高



営業利益



		2018年3月期	2019年3月期	対前年	
情報ソリューション	売上	53,861	56,463	+4.8%	
	売上総利益	14,250	15,443	+8.4%	
	%	26.5%	27.4%		
[内訳]	システム	売上	15,949	18,397	+15.3%
		売上総利益	2,842	3,903	+37.3%
		%	17.8%	21.2%	
	SI	売上	15,129	14,743	-2.6%
		売上総利益	5,090	5,056	-0.7%
		%	33.6%	34.3%	
	サービス	売上	22,782	23,322	+2.4%
		売上総利益	6,316	6,482	+2.6%
		%	27.7%	27.8%	
製品開発製造	売上	2,488	2,436	-2.1%	
	売上総利益	1,252	1,529	+22.1%	
	%	50.3%	62.8%		
連結合計	売上	56,349	58,899	+4.5%	
	売上総利益	15,503	16,972	+9.5%	
	%	27.5%	28.8%		

※2018年3月期の数値は、イグアスが行っていたビジネスであるディストリビューション分野の数値を除いて表記しております。

キャッシュフローの状況

(百万円)

12

	2018年3月期	2019年3月期	キャッシュフローの主要要因
営業活動によるキャッシュフロー	-647※	1,837	税金等調整前当期純利益 +2,767 法人税等の支払 -970
投資活動によるキャッシュフロー	96	-178	有形固定資産の取得 -115 投資有価証券の取得 -103
財務活動によるキャッシュフロー	484	-1,194	自己株式の取得 -509 配当金の支払 -603

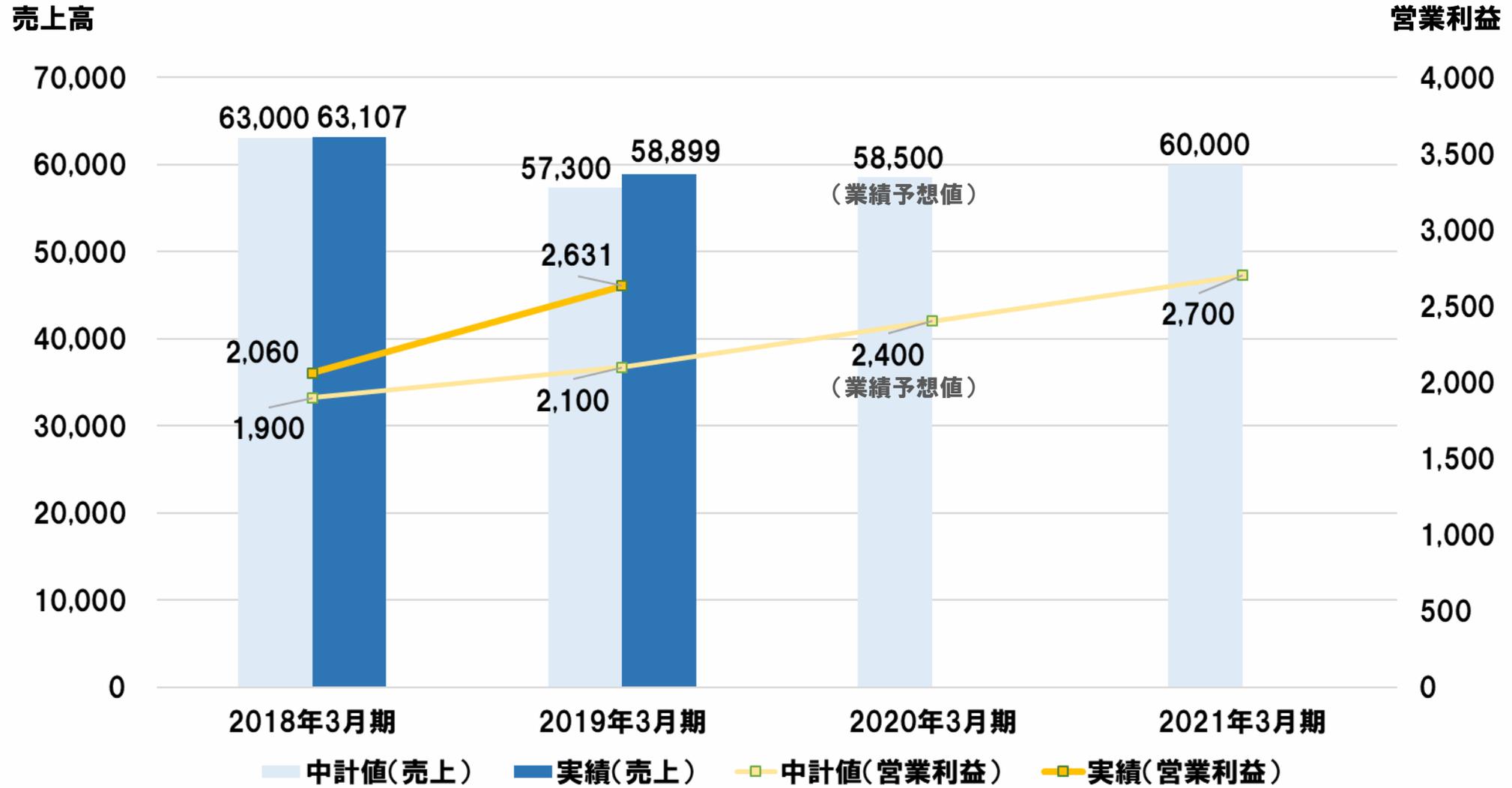
【自己株式の市場買付を実施】
取得した株式数 300,000株
市場買付期間 2019年2月1日～2月18日

※ 2018年3月期は退職給付信託へ2,000百万円を拠出したため営業キャッシュフローはマイナスとなっております。

	2018年3月期	2019年3月期	対前年
売上高営業利益率	3.3%	4.5%	+1.2%pt
ROE	8.3%	11.6%	+3.3%pt
1株当たり当期純利益(円)	70.8	106.4	+35.6
フリーキャッシュフロー(百万円) ※	-550	1,658	+2,209
1株当たり配当金(円)	32	普通配当 36 記念配当 10 計 46	+14

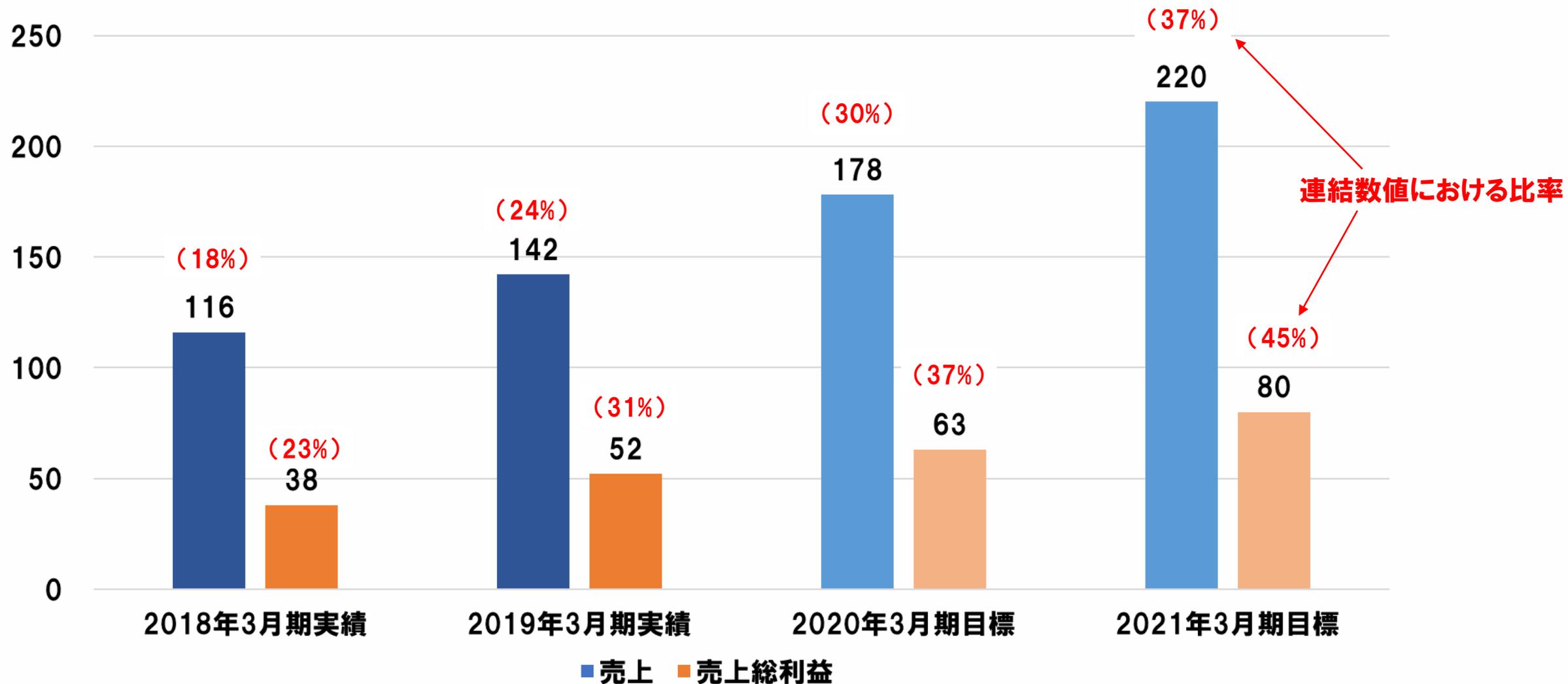
※フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュフロー + 投資活動によるキャッシュフロー

2. Transform 2020 進捗状況



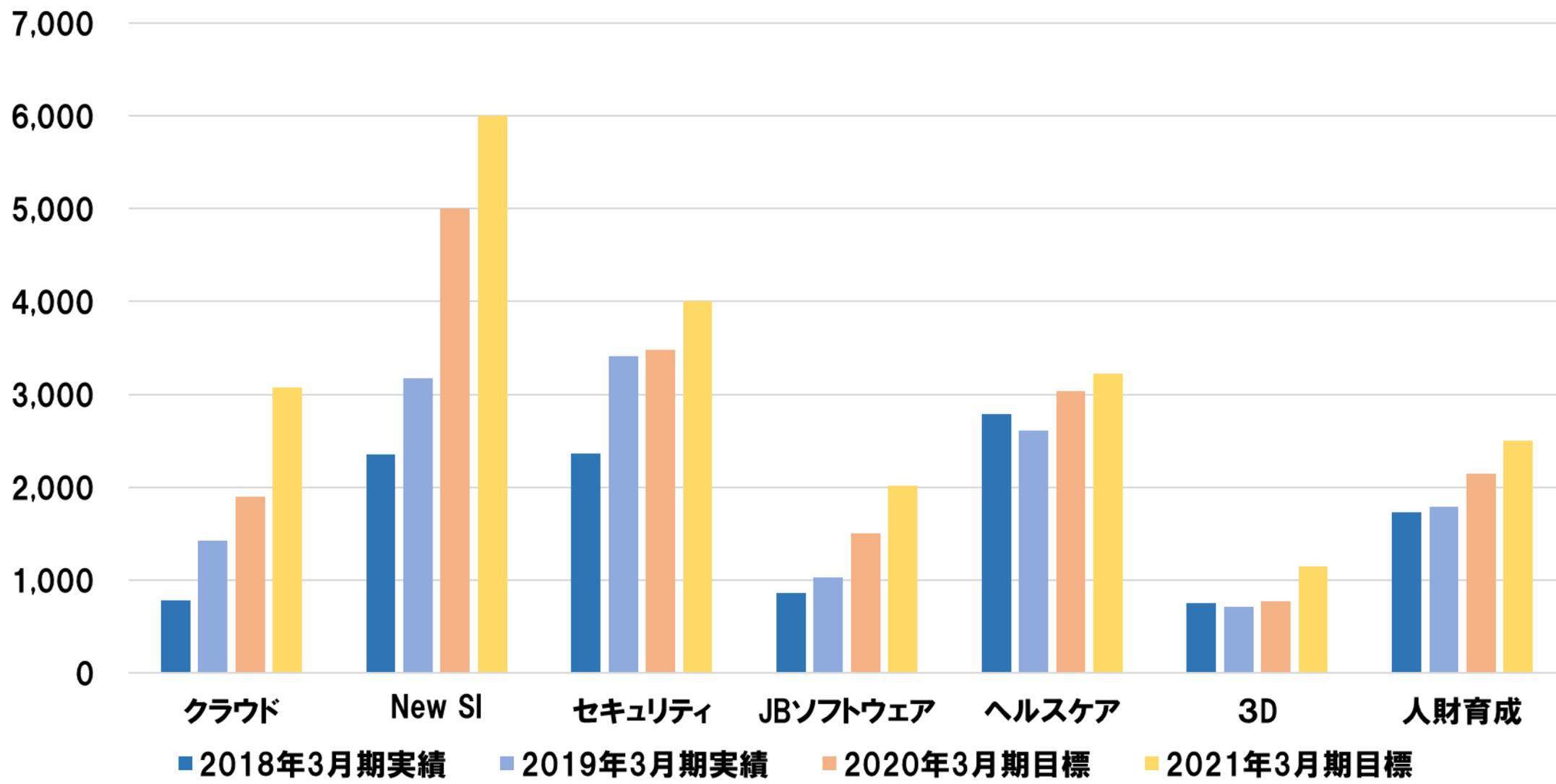
Transform2020 Wild7





重点事業分野Wild 7 分野別売上伸長状況

(百万円)



（重点事業分野Wild 7への取り組み事例のご紹介）

お客様概要

- ✓ 大手予備校様
- ✓ [ITシステム] 大学入試模擬試験やセンター試験の自己採点判定



JB Groupの提案

アジャイル開発

- 超高速開発
- リスク低減



開発ツール活用

- 実績のある GeneXus 利用

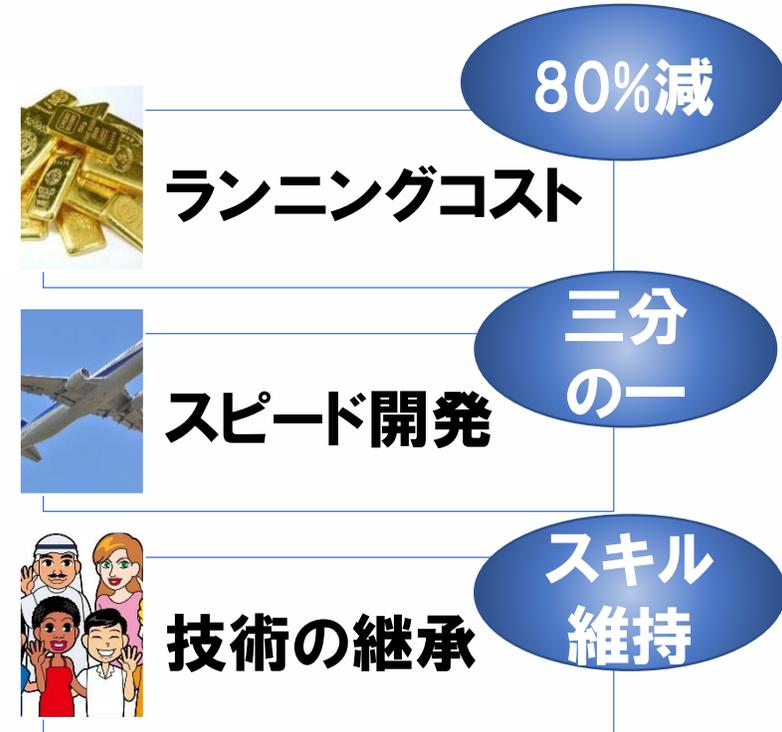


基幹システムの知識活用

- 豊富な経験
- 高いスキル



お客様にとっての価値



80%減

ランニングコスト

三分之一

スピード開発

スキル維持

技術の継承

お客様概要

✓ 業務用食品商社様



JB Groupの提案

- クラウド活用で外出先からのデータ活用
- スマホとAIチャットボットで簡単検索

基幹システム

顧客情報
商談情報
在庫情報

データ連携
Qanat 2.0



クラウド

kintone

LINEで在庫状況を簡単に検索



CLOUD AI ライト

お客様にとっての価値



成約スピード

迅速提案



業務効率化

問合せ減



簡単導入

LINEで簡単

セキュリティ対策

- ✓ 個人情報保護対策
- ✓ 最新セキュリティ脅威への対策



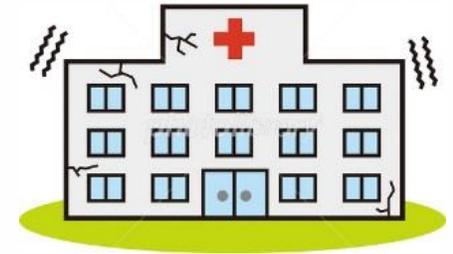
[病院情報システム]

電子カルテシステム
 医事会計システム
 各種部門システム



災害・障害対策

- ✓ クラウド基盤の活用
- ✓ データ保護対策
- ✓ 業務継続(BCP)対策



医師・職員「働き方改革」

- ✓ 多職種による情報共有
- ✓ 勤怠管理



地域包括ケア

- ✓ 介護と病院の連携



安診 ネット

- ✓ AIによるバイタル分析

病院固有業務

- ✓ 院内物流
- ✓ 病床管理



3. 2020年3月期 取り組みと業績予想

Transform2020 Wild7 取り組み

人財育成
プラットフォーム



人財育成
サービス

AI/RPA

クラウド
サービス

セキュリティ
サービス

New SI

ヘルスケア

Medical
ision
地域包括ケア
への貢献

クラウドネイティブ
アジャイル開発

JB
ソフトウェア

3D事業



クラウド連携



造形サービス
保守ビジネスNo.1

クラウド利用のための
セキュリティ・サービス

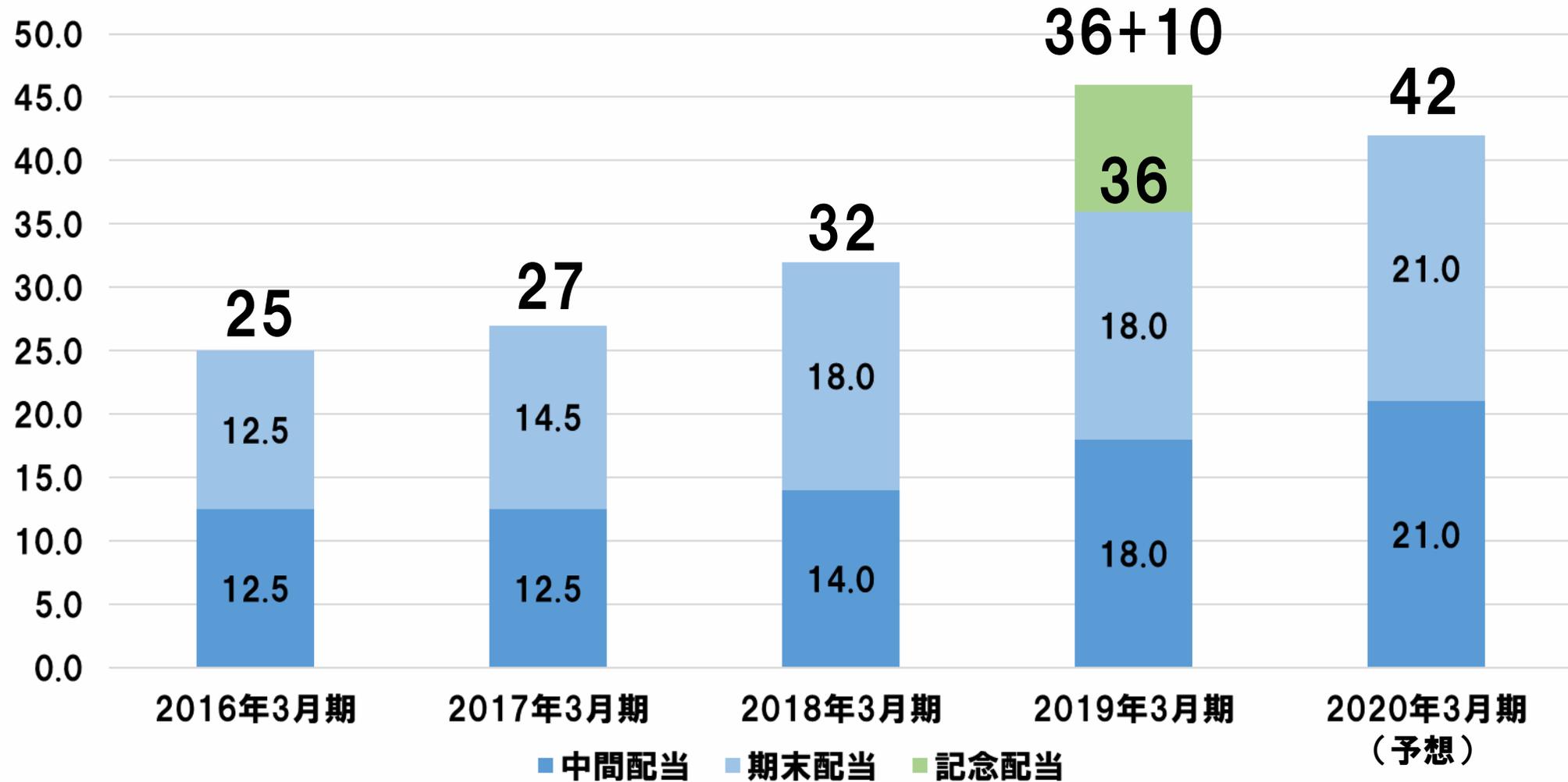


[RPA] ロボティック・プロセス・オートメーションの略。機械学習等を活用した業務の効率化・自動化の仕組みやソフトウェア

[参考]

	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	対前年	一時要因補正後 2019年3月期 実績
売上高	58,899	58,500	-0.7%	57,339
営業利益	2,631	2,400	-8.8%	2,121
	4.5%	4.1%		3.7%
経常利益	2,738	2,450	-10.5%	2,228
	4.7%	4.2%		3.9%
当期純利益	1,782	1,550	-13.0%	1,450
(親会社株主に帰属する当期純利益)	3.0%	2.6%		2.5%

(円)

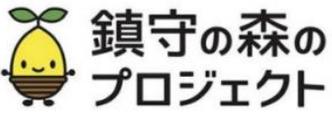




東京会場 5月23日 木 11:30 受付開始 ザ・プリンス パークタワー東京	大阪会場 5月28日 火 11:30 受付開始 ホテル阪急 インターナショナル	名古屋会場 5月30日 木 11:30 受付開始 ヒルトン名古屋	お客様と一緒に創る未来をJBグループ及びパートナー各社と共にのべ43セッション/約60ソリューションの展示を通じて具体的にご紹介
--	--	--	---

- 被災地支援 : 鎮守の森プロジェクト
- 緑化活動 : 富士山の森づくり活動
- 環境活動 : ベルマーク運動「子供の森」計画の推進
- 地域貢献 : コンタクトレンズ空ケース寄付
- 地域貢献 : 関東車椅子バスケットボール連盟オフィシャルサポーター
- 地域貢献 : 発展途上国の子どもたち支援
- 就労支援 : 障がい者インターンシップ
- 就労支援 : 障がい者クッキー販売
- 就労支援 : 「NIPPON ITチャリティ駅伝」協賛

東京会場 (16:00 - 17:30) ・ 名古屋会場 (15:00 - 16:30) 「池上彰のそうだったのか！」 ジャーナリスト 大学教授 池上 彰氏		大阪会場 (15:00 - 16:30) 「どうなる日本!？」 ニュースキャスター 辛坊 治郎氏	
---	--	---	--



- ✓ JBグループでは2013年度から、『鎮守の森のプロジェクト』の活動趣旨に賛同し、植樹・育樹活動に参加
- ✓ 2018年度も社員からの参加を募り、現地でのボランティア活動を実施するとともに、寄付金による支援実施



補足資料（用語集）

用語	英語表記、読み方など	解説
クラウド	cloud	データなどはすべてネットワークの向こう側(=クラウド:雲)にあり、利用者はインターネットに繋がるブラウザ端末を利用してデータの処理などを行ない、利用状況に応じて料金を支払うビジネスモデルのこと。
New SI	ニューエスアイ	新しいテクノロジー、最適な開発モデルでお客様とともにお客様のやりたいことを素早く具現化するというJBCCの考え方。
メインフレーム	—	主に企業など巨大な組織の基幹業務用などに使用される、大型コンピュータを指す用語。汎用コンピュータ、汎用機、汎用大型コンピュータ、大型汎用コンピュータ、ホストコンピュータ、大型汎用計算機 などとも呼ばれる。
オープンシステム	—	相互運用性、移植性、オープン標準などを持ったコンピュータシステムの事である。1980年代前半より、当時のメインフレームやミニコンピュータなどと比較し、主にUNIX(およびUNIX系)を指して使われた。
アジャイル開発	agile development	「俊敏な」「すばやい」という意味の英単語で、IT業界では経営環境の変化に迅速に対応できる柔軟な情報システムや、効率的なシステム開発手法などを指す

【出典/参考】

Wikipedia、IT用語辞典 e-Words、デジタル大辞林 他

用語	英語表記、読み方など	解説
超高速開発	—	業務アプリケーションの開発工数を劇的に短縮する開発支援ツールをはじめ、開発手法なども含めて、システム開発により高い生産性をもたらし、従来のシステム開発が抱えている問題解決などに活用していく考え方、開発への取り組みのことを指しています。
GeneXus	ジェネクス	南米ウルグアイの「GeneXus S.A社」が開発した『超高速開発ツール』です。超高速開発ツールとは、アプリケーションやシステムなどを自動生成するためのソフトウェアです。自動生成がどこまでの工程をこなすかはツールごとに異なりますがGeneXusでは、ほとんどの作業を自動で行ってくれます。
IBM i Series	アイシリーズ	IBMのミッドレンジコンピュータシステムのシリーズである。日本ではオフィスコンピュータと分類される場合が多い。オペレーティングシステムとしてIBM i (旧・OS/400)を搭載している。 1988年6月21日にAS/400 (Application System/400)として発売が開始され、2000年にiSeriesに改称され、2006年にSystem iと改称された。 2008年4月にそれまでのSystem pと統合され、Power Systems となった。
オフコン	—	オフィスコンピュータの略称。主に中小企業等での事務処理を行うために設計された、比較的小型のコンピュータ。主に日本のみで使われる呼称で、海外ではミニコンピュータ、ワークステーション、ミッドレンジコンピュータなどと呼ばれるコンピュータの一形態で、各メーカーによる独自設計が用いられていることが特徴である。

【出典/参考】

Wikipedia、IT用語辞典 e-Words、デジタル大辞林 他

用語	英語表記、読み方など	解説
AI	Artificial Intelligence	人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。
チャットボット	Chatbot	「チャット」と「ボット(ロボット)」を組み合わせた言葉で、人工知能を活用した「自動会話プログラム」。
kintone	キントーン	サイボウズ株式会社が提供している、webデータベース型の業務アプリ構築クラウドサービス。マウス操作で直感的に自社に合ったシステムが作成できる他、豊富なAPIを通じて他システムとの連携も容易に可能となっている。
Qanat2.0	カナート2.0	JBATが提供する、企業内外(オンプレミス・クラウド)の様々なデータをノンプログラミングで簡単に他のシステムへ連携・変換し、業務の効率UP・運用コスト削減に貢献する”データ連携ツール”です。 企業に不可欠な帳票作成・配信を自動化することで、作業担当者の負荷の軽減や、業務の属人化を解消する等、業務改善や企業の『働き方改革』にも寄与します。
Medical Vision	メディカルヴィジョン	JBCCが提供する、電子カルテシステム、医事会計システムを中心とした、時代とともに変化し続ける医療経営環境を見据え、院内業務を効率的に改善する各種ソリューションの総称。

【出典/参考】

Wikipedia、IT用語辞典 e-Words、デジタル大辞林 他

用語	英語表記、読み方など	解説
クラウドネイティブ	Cloud native	クラウド上での利用を前提して設計されたシステムやサービスのことである。主に企業の基幹業務システムに言及する際に用いられる。
Qanat universe	カナートユニヴァース	JBATが長年培ってきたハードウェア技術と業務パッケージやツール系ソフトウェアの実績に加え、最新のクラウド技術を結集したデータ活用クラウド基盤です。 従来、一元的に取り扱うことが難しかったセンサーやログ等のIoTデバイスからのデータと既存の業務システムの情報をクラウド上で収集、融合し、見たい形に振り分け、加工、集計することが可能です。さらに、加工、集計したデータをノンプログラミングで別のシステムに連携することもでき、手軽に、低コストでIoTデータの活用を実現します。
AI	Artificial Intelligence	人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。
RPA	Robotic Process Automation	AIなどの認知技術を取り入れたロボットに代行してもらうことにより、業務の大部分における自動化や効率化を図る取り組み。

【出典/参考】

Wikipedia、IT用語辞典 e-Words、デジタル大辞林 他

用語	英語表記、読み方など	解説
5G	—	第5世代移動通信システム。「5G」(ごジー、ファイブジー)と略記される。1G、2G、3G、4Gに続く無線通信システムである。 2019年10月頃に細部を含めた仕様が確定する予定となっている。 GSMA(業界団体)の予想では、5Gの普及は非常に緩やかかつ限定的になると考えられており、2025年でも主流な移動体通信は4Gに当たるLTEであり、5Gが通信に占める割合は3Gの半分程度とされている。
DX (デジタルトランス フォーメーション)	ディーエックス (Digital transformation)	デジタル技術を出発点として、またはデジタル技術を駆使して、あらゆることをトランスフォーム(変化、転換)すること。情報技術の普及・浸透による「社会のデジタル化」がもたらす組織や社会の変革を指す言葉である。

【出典/参考】

Wikipedia、IT用語辞典 e-Words、デジタル大辞林 他

JBCCホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション

TEL 0120-887-652 (土日・祝日を除く、9:00~17:00)
e-mail ir@jbcc.co.jp

資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の動向や業績等に関する見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んでおります。したがって、実際の業績は様々な要因により見通しとは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。